

# 超伝導加速器利用推進チーム報告

2017年4月12日

河田洋

- 今年度から超伝導加速器利用推進チームに変更
- ERL推進委員会で加速器技術の達成度を評価
- cERLの運転について
- 今年度予算について
- JST「未来社会創造事業」への重点公募テーマ提案
- TIA連携プログラム調査研究課題に申請

# 超伝導加速器利用推進チームに変更

昨年度のKEKロードマップの改定とERL総括委員会の答申を受けて、2016年度にERLの位置付けは従来考えられていました次世代放射光源の位置付けは無くなりました。一方、KEKが今後行うべき事項を整理したKEK-PIPには、『「ERL技術の産業応用」を目指して、出口戦略を作る』ことが明記されています。

以上の状況を鑑み、2017年度からERL計画推進室は廃止され、代ってERL技術の出口戦略を策定しその研究開発を担うために、「超伝導加速器利用推進チーム」を先端加速器推進部に部内措置として設けられることになりました。ERL技術の根幹は大電流・高繰り返し電子ビーム加速に他なりません。その産業的な出口として想定している分野は、約2年前から精力的に検討を進めてきている半導体リソグラフィ用の大強度EUV-FEL光源装置やレーザーコンプトン散乱 $\gamma$ ・X線光源を念頭に置いた核セキュリティ関連施設や高精細医学イメージング装置等々を想定しています。そのいずれもERL技術をベースとしていますので、大部分の昨年までのERL計画推進室のホームページを残し、ここに新たなトップページを掲載いたしました。今後も皆様のご支援をお願い申し上げます。 <http://pfwww.kek.jp/ERLoffice/>

# ERL計画推進委員会で加速器技術の達成度を評価

- 今年度からERL計画推進室は廃止されたがERL計画推進委員会が一年間継続する。
- cERLの今までのコミッショニング結果をまとめて、ERL計画推進委員会の中に評価専門委員会を立ち上げ、評価を頂く。
- その専門委員会の報告書と結果のまとめを推進委員会で承認を頂き、その報告書とERL加速器技術のまとめを後世に残す。
- スケジュールとしては、推進委員会を5月中に開催し、上記の手続きを確認し、8月に評価専門委員会を開催し、報告書を9月中にまとめて、秋に推進委員会を開催し承認を求める。
- 皆様のご協力をお願いしたい。

# cERLの運転について

本日のコミッショニング打合せで詳細を  
聞かせて頂いた。

関係者の尽力に感謝します。

# 2017年度超伝導加速器利用チーム予算

- 最低限の維持費として1000万円が計上された。
- 具体的な最低限の維持の内容に関しては4月14日の建設打合せで行う。